

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2016年12月23日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 「プラスオピニオン」のコーナーは日本銀行前橋支店長の神山一成さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(神山支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、12月14日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。

まずは業況判断DIの推移をご覧下さい。



(神山支店長) 業況判断DIは、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

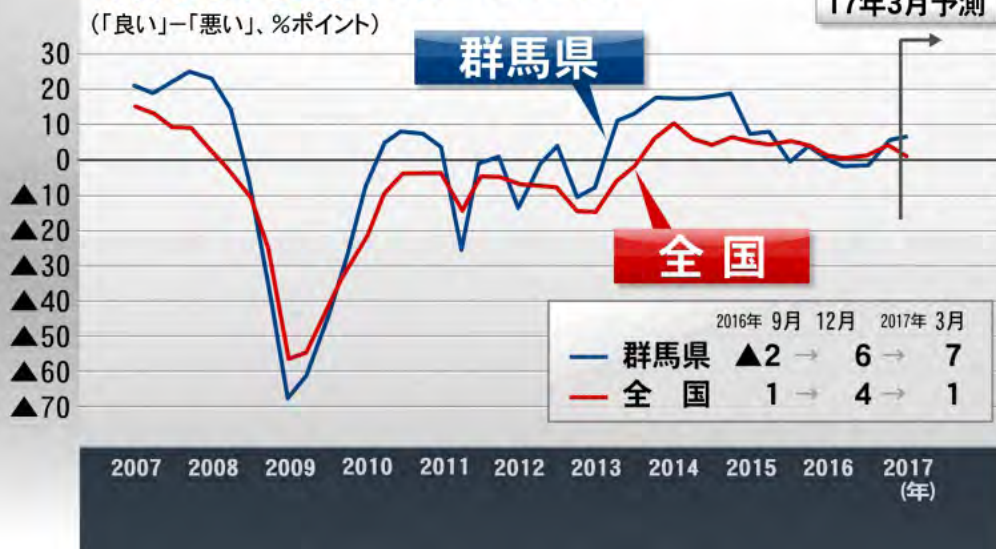
群馬県の業況判断DIは、前回マイナス2から7ポイント改善し、今回12月調査ではプラス5となりました。

なお、全国は、前回プラス5から2ポイント改善し、今回はプラス7となりました。

先行き3月は、群馬県がプラス6と1ポイント改善、全国はプラス2と5ポイント悪化する見通しとなっています。

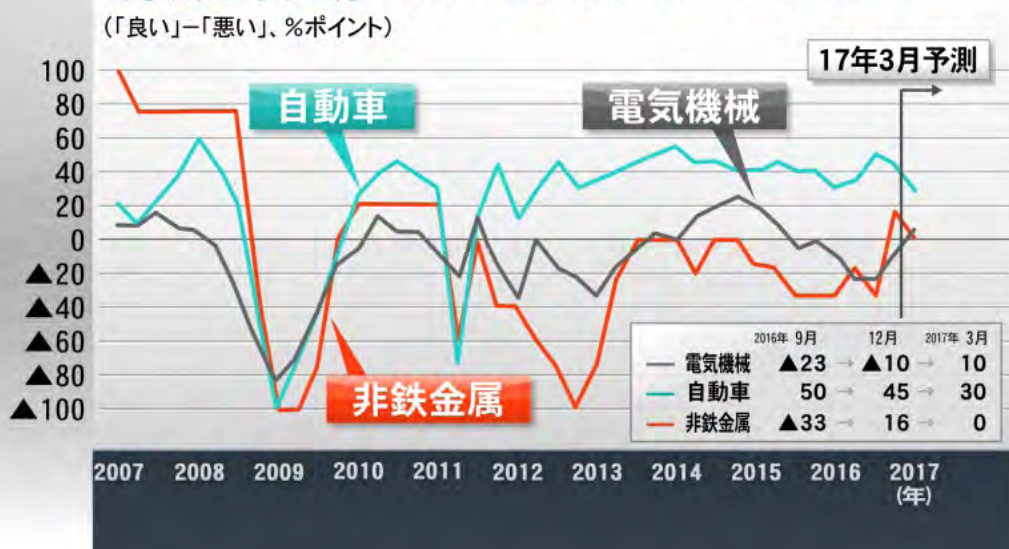
それでは、製造業と非製造業に分けてみていきたいと思ひます。次のフリップをご覧ください。

## 業況判断D.I. (製造業)



(神山支店長) まず、製造業です。群馬県は、前回マイナス 2 から 8 ポイント改善し、今回 12 月調査ではプラス 6 となりました。先行き 3 月はプラス 7 まで改善する見通しです。

## 業況判断D.I. (電気機械、自動車、非鉄金属)



(神山支店長) 製造業をさらに分けてみていきますと、自動車は、若干の振れはありますが、きわめて高い業況感をキープしていると考えています。電気機械の業況判断DIは、本年入り後大幅なマイナスとなっていました。先行きにかけて漸くプラスに戻す動きとなっています。非鉄金属も 8 四半期ぶりにマイナスが解消しています。

(キャスター) こうした動きの背景には、どのような事が影響しているのでしょうか。

## 12月短観のポイント (製造業)

- ① 北米向け自動車輸出の好調持続
- ② IT関連需要の一部持ち直し
- ③ 海外経済の  
持ち直し期待と為替円高の修正

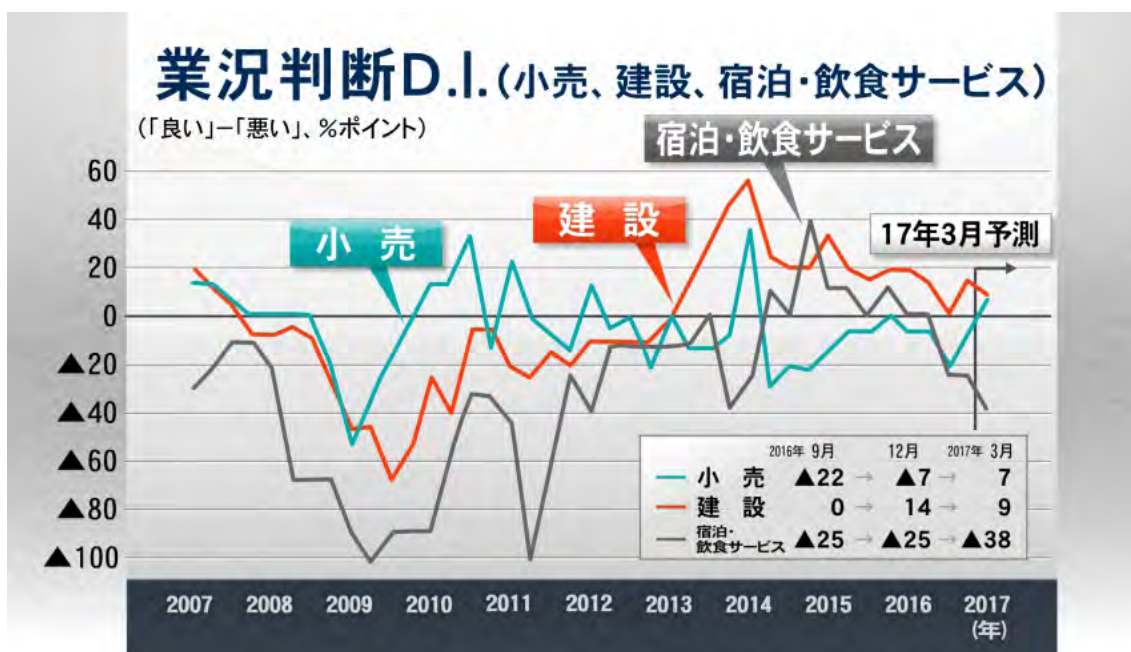
(神山支店長) 当地主力の自動車からは引き続き北米向け輸出が好調との声が聞かれています。また、電気機械や非鉄金属などからはIT関連需要の一部持ち直し、より具体的にはアジア向けのスマートフォン部品の回復の声が聞かれています。製造業全体にかかる動きとしては、海外経済が持ち直してきている中で、為替レートが円安方向に転じ、エネルギー・素材価格が上昇していることも、プラスに作用しているとみています。





(キャスター) 一方、非製造業の動きはどうなっていますか。

(神山支店長) 非製造業は、群馬県は、前回マイナス1から4ポイント改善し、今回12月調査ではプラス3となりました。先行き3月はプラス7と4ポイント改善する見通しです。



(神山支店長) 非製造業についても、さらに分けてみていきますと、前回台風など天候不順の影響から大幅なマイナスとなっていた小売が、マイナス幅を大きく縮小し、先行きはプラスに転じる動きとなっています。また、前回ゼロまで悪化していた建設が、今回ははっきりとしたプラスに戻っています。一方、宿泊・飲食サービスは引き続き大幅なマイナスで推移しています。

## 12月短観のポイント (非製造業)

- ① 天候不順の影響の剥落
- ② 公共投資の下げ止まり
- ③ 人手確保難

(神山支店長) 小売では、例年より気温の低下が早く、冬物商戦の動きは悪くないようです。また、雇用所得環境の改善や株価の持ち直しが消費者心理を下支えしていることを指摘する声も聞かれます。また、建設では、2016年度予算の早期執行や新たに取りまとめられた経済対策の効果により、事業量が増えつつあるとの声が聞かれます。一方、宿泊・飲食サービスをはじめ、非製造業の幅広い業種において、人手の確保がより難しくなっており、景況感改善の障害となっているように窺われます。

(キャスター) 企業の事業計画については、どのようになっていますか。

設備投資計画					前年度比、%
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	前回調査比修正率
全産業	4.5	7.5	▲2.4	14.1	5.9
製造業	0.6	21.2	1.6	25.2	3.4
非製造業	12.2	▲14.4	▲11.4	▲13.9	16.0

(神山支店長) 2016年度事業計画について、まず設備投資計画をみますと、前回9月調査から、製造業、非製造業ともに上方修正された結果、前年比プラス14.1%の高い伸びとなりました。製造業は前年比プラス25.2%、非製造業は前年比マイナス13.9%ですので、伸び率は製造業を中心としたものですが、前回調査からの上方修正幅は非製造業の方が大きくなっています。人手不足・人手確保難により効率化と省力化を設備や機器への投資で進めなければならなくなっていることが押し上げ要因となっています。

(キャスター) その他の事業計画については、どのようになっていますか。

## 売上高・収益計画と想定為替レート

前年度比、%

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比 修正率
売上高 (全産業)	10.9	1.0	0.7	▲1.5	▲0.9
経常利益 (全産業)	9.5	1.6	7.3	▲1.1	▲5.3

円/ドル

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比
想定為替レート (製造業)	99.42	108.11	120.33	103.99	▲1.86
				上期:107.06	+0.38
				下期:100.81	▲4.24

(神山支店長) 2016年度の売上高、経常利益については、今回ともに下方修正され、減収減益の計画となっています。

もっとも、これには、製造業企業の想定為替レートが103.99円と前回調査との対比で2円近く円高方向に修正されたことが大きいと言えます。企業は年度の事業計画を頻繁に変更することはなく、現時点においては11月に円安に転じる前の数字を回答する先が多い状況です。もしかしたら、先行き不透明感が残る中、現時点においては下方修正の余地を確保しておきたいとの気持ちも働いているかも知れません。いずれにせよ、この先為替レートが大きく動かなければ、想定為替レートは円安方向に修正され、売上高、経常利益ともに上方修正されてくるとみられます。

(キャスター) 本日は、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、お話をうかがいました。

以 上